

1 コース

プライマリーコース

定員:100名

8月18日(日)

時 間 10:00～16:00

会 場 大阪歯科大学 天満橋学舎

対 象 歯科医師

研修費 歯科医師(会員)20,000円、歯科医師(会員5年未満)5,000円
歯科医師(会費未納者、他大学)30,000円

カダバー・サージカル・トレーニング から得られる知識

～歯周外科・インプラント外科に必要な解剖学的知識～



上村 守

大阪歯科大学主任教授(解剖学講座)
死体解剖資格認定(系統解剖)

[略 歴]

2000年	大阪歯科大学卒業
2002年	大阪歯科大学助手(解剖学講座)
2007年	大阪歯科大学助教(解剖学講座)
2009年	博士(歯学)学位受領 大阪歯科大学
2010年	大阪歯科大学大学院歯学研究科助教(解剖学講座)
2012年	大阪歯科大学大学院歯学研究科講師(解剖学講座)
2013年	大阪歯科大学講師(解剖学講座)
2019年	大阪歯科大学主任教授(解剖学講座)
2019年	大阪歯科大学大学院歯学研究科教授(解剖学講座)

現在の解剖学教育には人体解剖学実習が欠かせない。しかし、この実習は医科・歯科における学生(主に2学年で実施)されるだけである。昨今の医療技術は高度化しており、また、医療機器も充実しているため、実験動物で代用するのも限界が生じている。特に歯科医療に関しては、歯科インプラント手術が開業医でも実施され、大変難易度が高く、残念ながら医療事故も少なからず発生している。そこで、ご献体を使用した手術手技研修(カダバー・サージカル・トレーニング:以下C S T)においては、医科の分野で文部科学省指導のもと日本口腔外科学会・日本解剖学会の「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」に基づき、活発に実施されている。しかし、歯科の分野においては、開催回数も少なく、参加人数も少ないのが現状である。

また、海外に渡航し、C S Tを実施する専門学校・研究会も多く存在し、高額の費用で実施されている。そこで、我々は単独の歯科大学という利点を活かし、安価で、安全に、しかも短時間で手術手技がマスターできるように歯科医療に特化したC S Tを過去3年実施した。その実例をもとに、今回は、上顎骨の後歯槽管、下顎骨の下顎管の走行、顎関節の加齢変化を実際の写真を示しながら、臨床で注意すべき血管・神経を解剖学的な見地から紹介する。また、私のライフワークでもある肉眼解剖学やアクリル樹脂血管鋳型法を利用した糖尿病の研究成果にも触れたい。



牧草 一人

大阪歯科大学講師(非常勤)(解剖学講座)
日本歯周病学会専門医・指導医

[略 歴]

1987年 大阪歯科大学卒業
1987年 大阪歯科大学歯周病学講座入局
1990年 大阪歯科大学歯周病学講座 研修生修了
1990年 牧草歯科医院 院長
1993年 医療法人社団弘成会 牧草歯科医院理事長
2002年 博士(歯学)学位受授領 大阪歯科大学
2002年 大阪歯科大学講師(非常勤)解剖学講座
2002年 日本歯周病学会認定医(その後専門制度へ移行)
2008年 BIOMET Dental (現ZimVie) グローバルメンター
2008年 JIPI (Japanese Institute of Periodontology & Implantology) 主宰
2010年 日本歯周病学会指導医
(研修施設医療法人社団弘成会 牧草歯科医院)

歯学部生に「最も苦手な科目は何か?」と質問すると、第1位は解剖学であることが多い。歯科衛生士学校や歯科技工学校でも同様である。その一方で、卒業後の歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士に「今、もう一度聞けるならどの科目を選ぶか?」と聞くと、これがまた解剖学だそうだ。一見矛盾するかのようだが、このようなやりとりはどのように成立するのだろうか。

歯科医学の教育を大きく大別すると基礎系分野と臨床系分野に分けることができる。当然ながら、まず学生は基礎系分野から学び始めるのだが、臨床を経験しない者にとっての基礎医学はただの「暗記もの」でしかない。やがて臨床系分野を学び、国家試験にも無事に合格したのちにふと気がつく。今から思えば解剖学的知識は臨床において非常に重要な情報だったと。しかし、いざ卒業してみると、臨床手技を取得するための講習会や学術書を見つけるのは容易なのだが、臨床を見据えたうえでの基礎医学系の講義や学術書はなかなか見つけることが難しい。この状態を「解剖学迷子」といい、冒頭に述べたような会話となって表現されているのだろう。

近年の歯科臨床ではインプラント治療は特別な治療法ではなく、欠損補綴のいちオプションとして確立している。

さらに歯周病治療の分野では歯周組織再生療法や歯周形成外科手術などにも注目が集まり、日常臨床において歯科医師が外科的処置を行う機会は少なくない。そこで今回は、約30年間にわたり歯周病治療やインプラント治療の臨床と解剖学教育の二足の草鞋を履き続けてきた私の経験をもとに、歯周病治療とインプラント治療における必要な解剖学的知識について解説したいと考える。

2 コース

プライマリーコース

定員:100名

9月1日(日)

時間 10:00~16:00

会場 大阪歯科大学 天満橋学舎

対象 歯科医師

研修費 歯科医師(会員)20,000円、歯科医師(会員5年未満)5,000円
歯科医師(会費未納者、他大学)30,000円

インプラントと矯正

～インプラント知識×矯正の知識で
ステップアップしませんか?～



米澤 大地

米澤歯科醫院

[略 歴]

1996年 長崎大学歯学部 卒業
2003年 米澤歯科醫院 開業
2008年 S.A.F.E.(Sharing all Failed Experiences)共同設立
2009年 GPO(General Practitioner's Orthodontics)設立
2014年～ 長崎大学歯学部 歯科矯正学分野 非常勤講師
2017年～ 長崎大学歯学部 口腔インプラント学分野 臨床准教授
2018年～2023年 日本臨床歯科学会大阪支部長(大阪SJCD 会長)
2019年～ 大阪歯科大学付属病院 口腔インプラント科 CEセミナー講師
2023年 日本臨床歯周病学会理事 OJ理事
日本臨床歯科学会理事(SJCD)

インプラント治療の前処置として、対合歯の挺出を抑え、歯列の軽微な不正を修正し、即時埋入のために歯を挺出し、適切なインプラント補綴を実現するために歯軸を修正するなど、部分的な歯の移動を行うM.T.M.(Minor Tooth Movement)テクニックは、インプラント治療のクオリティ向上に寄与します。

しかし、この歯を移動させる方法は通常の歯科治療とは異なり、治療の複雑さや必要な材料に関してなど、理解が難しいことがあります。また、潜在的なリスクに対する懸念もあり、慎重なアプローチが求められます。本講演では、日常臨床において実践可能な部分矯正の手法、その診断、潜在的なリスクについて考察します。

また、私が著書で提唱したM.T.M.(一歯単位の小規模な部分矯正)と対照的に、範囲が広い偏顎部分矯正のL.O.T.(Limited/Local Orthodontic Treatment)は技術的な難易度は低いが、包括的な咬合治療において重要な役割を果たします。さらに、全顎矯正治療はインプラント治療との協力において優れた結果をもたらします。欠損歯列においては、インプラントが不要となることもあります。審美的な問題や咬合の問題を抱えた患者に対して、インプラントと矯正治療を組み合わせた治療計画についてもご紹介いたします。

3 コース

プライマリーコース
ハンズオンセミナー

定員:30名

10月27日(日)

時 間 10:00~16:00

会 場 大阪歯科大学 天満橋学舎

対 象 歯科医師

研修費 歯科医師(会員)30,000円、歯科医師(会員5年未満)10,000円
歯科医師(会費未納者、他大学)50,000円
※実習材料費別途(後日HPに記載)

解剖と機能から考える 全部床義歯臨床のポイント ～デンチャーが上手になりたい!～



松田 謙一

ハイレイフ大阪梅田歯科医院
大阪大学大学院歯学研究科 臨床准教授

[略 歴]

2003年 大阪大学歯学部卒業
2007年 大阪大学大学院歯学研究科卒業
2007年 大阪大学大学院歯学部附属病院 第二補綴科 医員
2009年 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 助教
2019年 同上 常勤退職、臨床講師
2019年 4月 HILIFE DENTURE ACADEMY 学術統括責任者
2019年 10月 ハイレイフ大阪梅田歯科医院 院長
2020年 4月 大阪大学大学院歯学研究科 臨床准教授

[所属学会等]

日本補綴歯科医学会 (指導医・代議員)
日本老年歯科医学会 (認定医)
松風デンチャーコース 2010年~2012年, 2020年~現在
GCベーシックセミナー 2012年~2014年
BPSクリニカルインストラクター 2012年~現在
JIADS BPSコース 2018年~現在

[主な雑誌論文(2015年以降)]

- 1.『全部床義歯臨床のビブリオグラフィ』
歯科技工 (2015年1月~2017年6月 全25回連載)
- 2.『無歯顎患者への戦略的補綴介入.IODと全部床義歯』
デンタルダイヤモンド(2017)42: 21-49.
- 3.『全部床義歯のClinical & Educational Question.』
歯界展望(2017)130(4): 625-641.
- 4.『現義歯から読み解く新義歯への手がかり』
歯界展望(2018年1~12月)
- 5.『患者説明で変わる総義歯臨床』ウインテッセンス(2018年1~6月)
- 6.『歯科衛生士のための総義歯知識メンテナンス』
デンタルハイジーン(2019年1月~12月)
- 7.『全部床義歯臨床のビブリオグラフィII』
歯界展望(2019年4月~2020年9月)
- 8.『失敗しない総義歯臨床テクニック』QDT(2020年1月~12月)
- 9.『矯正治療と全部床義歯臨床の共通点と相違点』
歯界展望(2020年8月~2021年7月)
- 10.『全部床義歯、古典文献への誘い』
歯界展望(2021年9月~2022年7月)
- 11.『訪問歯科診療における義歯治療』歯界展望(2022年4月~連載中)

[主な書籍]

- 1.全部床義歯臨床のビブリオグラフィ
松田謙一 著/前田芳信 監修 2019年2月 医歯薬出版
- 2.現義歯から読み解く新義歯への手がかり
松田謙一 著 2019年6月 医歯薬出版
- 3.はじめての全部床義歯
松田謙一ら著 2019年12月 医歯薬出版
- 4.名著から学ぶ全部床義歯臨床
松田謙一/前田芳信 監修 2021年9月 医歯薬出版
- 5.はじめての部分床義歯
松田謙一ら著 2021年10月 医歯薬出版
- 6.義歯補綴医と矯正歯科医クロストーク
松田謙一ら著 2021年11月 医歯薬出版

全部床義歯臨床には多くの手法や流派が存在し、毎年、多くの書籍が出版され、様々な講演会も多く開催されている。つまり、それだけ習得が困難であり、多くの臨床家が苦慮している分野の一つだと考えられるのではないだろうか？

一方で、近年の大学教育では全部床義歯に関する臨床実習のケース数や授業数も減少傾向と報告されており、全部床義歯に関する知識が不足したまま卒業してしまう歯科医師が増加していることが危惧されている。全部床義歯臨床を成功させるために学ばなければならないことは実に多岐に渡るが、まずスタートポイントとして理解しておくべきことの一つは、“義歯の正しい形”を理解することである。正しい形が分かれば、現義歯の何が悪いのか、その後の各臨床ステップが上手くできているかどうか等を判断することが容易となる。そこで、本セミナーでは、全部床義歯臨床に必要な無歯顎の解剖や、機能する義歯の形態を模型実習を通じて考察したい。また、正しい形の義歯を得るための臨床の各ステップについてもポイントを踏まえて解説したい。